

2018年度事業計画書

(2018年9月1日から2019年8月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

特定非営利活動法人フードバンク関西は、本年度、活動16年目に入ります。平成15年4月の活動開始以来、「食べ物は命の糧、大切にしたい」の思いに、皆様からの賛同を得て、フードバンク事業を継続して参りました。

昨年度実現した事務所兼倉庫の移転を契機に、物流拠点としての機能が格段に向上したこと、ボランティアの作業環境がよくなったことを、事業の内容充実と発展に結びつける1年となるよう、ボランティア一同、心を合わせて努力したいと考えます。

新年度そしてこれから力を入れたい事業について、下記に説明します。

(1) 食品取扱量の拡大と要支援生活者への無償分配

①取り扱い食品量の確保

フードバンク関西は、本年度も食品関連企業や個人から品質に問題のない食品の寄贈を受け、要支援生活者の自立を支援する非営利福祉団体を通じて要支援者にこれらの食品を無償で分配するフードバンク事業を継続し、さらに発展させます。

昨年度の226トンの食品取扱量を本年度は越えると同時に、食品の種類が多様化、特に食事の主菜、副菜として使える食品の回収量の増加を図ります。

そのためには、食品として魅力のある商品を扱っている企業を対象に、渉外活動に力を入れ、新たな食品提供企業の獲得に具体的な努力をします。

本年度は、より積極的に企業に働きかけを行い、子ども元気ネットワーク事業、子ども食堂支援事業では、食品関連企業等がこれらのプロジェクトに直接参加し、余剰食品の提供ではなく、正規商品の提供やプロジェクトの企画に加わるという形も求めていきたいと考えます。

②フードドライブ

本年度も、消費者の意識改革を最も効果的に促すフードドライブを、協働できる団体と組んで実施します。

昨年度から始まった神戸市環境局の主導によるフードドライブが、今後も協力量販店を増やす形で継続される事を受けて、当法人は、検品、仕分けと、集めた食品を福祉的に活用する部分で、協働を継続します。作業自体は、食品の種類が多く、賞味期限までの時間が短いことから、検品、仕分けに携わるボランティアの負担は大きいのですが、食品を寄付して下さった市民の思いを活かし、集めた食品の有効活用を図るという役割を果たしていきます。この結果、市民の意識が変革して、食べられるのに廃棄される食品が減り、食品ロスが少ない地域社会に変わっていくことを期待します。

(2) 食のセーフティネット

食のセーフティネットは、困窮状態に陥った市民に対し、行政等の第3者機関からの支援要請を受け、当法人が緊急支援食糧を準備し無償で提供する仕組みです。

本年度からは、事業協定が締結されていない市や区からの支援要請を受けた際は、原則として、先に事業協定の締結の手続きをお願いする事と、行政にも支援要請を出す人数に比例した食品配送コストの一部負担をお願いすることになります。

(3) 子ども元気ネットワーク

平成27年度から取り組み始めた、複数のNPOとの連携事業である「子ども元気ネットワーク」で、当法人は月1回の宅配を利用した食支援を担当しています。支援期間を原則2年とした事により、2年を満了した世帯も多くなり、9月は32世帯への食支援から始まります。しかしながら、この事業は、支援対象世帯の子ども達には大きな喜び、母親には心の安心と安定を与えるという意味で、母子世帯の大きな支えとなっており、支援効果を明確に実感できる事業です。

また現在の日本の社会情勢の中で、非正規就労で生活を立てているシングルマザーの平均年収が130万円程度で、生活保護レベル以下で子育てをしている世帯が多数存在している現実を踏まえると、この「子ども元気ネットワーク」事業はもっと充実拡大していかなくてはいけない事業であると判断できます。

この現実には、当法人として対処できる事は、現在のウイメンズネットこうべ、いくの学園に加えて、女性と子ども支援事業をしている新たなNPO等と連携し、支援対象者の有無を把握し、支援対象世帯を増やす事です。

まず、2018年度は、連携するNPOをふやして、支援世帯を60世帯にすることを具体的な目標にします。今後は、NPOの連携による、貧困母子世帯支援「子ども元気ネットワーク事業」を当法人の主要プロジェクトにしていくことを目指します。

(4) フードバンクと子ども食堂の連携

子ども食堂の数は、昨年度1年間で目覚ましく増加しましたが、子どもの孤食、欠食を減らし、安心できる居場所としての役割を果たすために、さらに多くの子ども食堂が運営を開始する必要があります。

昨年度に続いて、本年度も子ども食堂との連携プロジェクトを進めます。

兵庫県南部地域で子ども食堂を運営する団体のネットワーク「兵庫こども食堂ネットワーク」の内容を強化し、規約を定め、ネットワーク自体で助成金申請や外部からの支援を受けやすい組織となる努力をします。当然のことながら、フードバンク関西はこのネットワークとのしっかりした連携を維持しつつ、ネットワークが自主的な組織として独り歩きが出来るようにサポートを継続します。

多くの子ども食堂が活動する中で、運営団体が参加する子ども達の現状をよく把握できるようになってきています。その中で、特に食生活に問題のある子ども達を見出した場合、子ども食堂への食材支援に加えて、運営者と密接な連携を取り、子ども食堂を通じて要支援世帯に支援を繋げていく事も、一つの可能な形と考えています。

(5) 運営基盤強化のための取り組み

①組織運営の強化

フードバンク関西は、2003年4月から活動を開始し、参加を希望するボランティアを無条件で受け入れ、本年度初めで85人のボランティア集団となりました。それぞれのボランティアが多様な能力を発揮し、今の運営が成り立っています。その事を、奇跡的と思うほど、組織として幸運な事だったと理解しています。

昨年度は、事務所兼倉庫の移転を実行し、フードバンクとして今後10年位は活動を継続できる物理的な条件が整い、ボランティアの作業環境も整備されました。

本年度からは、ボランティアの自然集合的な組織の良さは維持しつつ、組織運営の強化を図りたいと考えます。その具体的な第一歩として、各ボランティアが担っている作業の分担が見える化し、負担が過重な部分や、作業分担が不明確で各ボランティアが力を十分発揮できていない部分を分析し、必要な対応を施して、ボランティアと

しての十分な働き甲斐を感じながら参加できる組織にしていきたいと考えます。

②活動運営費の確保

活動運営費の確保も、活動基盤を確かなものにする重要な要素です。幸いな事に、ここ数年、大口の助成金、大口の寄付があり、経常収支は継続して黒字とすることが出来ました。しかしながら、次年度期待できるかどうか不明の助成金、大口寄付に経常収入を依存する事はリスクが大きく、賛助会員の年会費で大半の運営費を確保できる状態に持っていくことが理想です。活動内容を、きめ細かく、多くの市民に広報し、作業に参加できないけれど賛助会員として参加したいという市民を増やし、毎年継続して当法人の活動を支援する人達の数を増やす事に真剣に努力したいと考えます。そのためのイベント、講演活動、幸せの黄色いレシートキャンペーンでの活動アピールの機会を大切に活かしていく必要があります。

当法人としては初めての取り組みとして、2018年10月28日に「ゼロ円キッチン」という映画の上映とパネルトークイベントを神戸アートビレッジセンター代ホールで開催します。このような企画を通じて、今まで食品ロスの問題を知らなかった人々に関心を持っていただく機会になる事を願っています。

さらに、ホームページやニュースレターを通じて、「フードバンク関西は、今どのような活動をしているのか、すぐ分かる」と言っていただけのような、皆様への情報公開と、ご支援をしていただきやすいNPOであり続けていきます。

お一人一人のご負担は小さくても、たくさんの賛同者に恵まれて、安定継続的に活動を維持できる、理想的なフードバンク団体になる事が私達の願いです。

以上、命の糧である食べ物を大切にするという理念を大切にし、食べられるのに廃棄される食品を引き取り、それらを必要とする人達に届け、「ありがとう」が飛び交うフードバンク関西の活動スタイルを原点に置きつつ、新たな飛躍に向けて活動を充実、拡大していきたいと考えます。皆様方のご支援をよろしくお願い致します。